

こころの便り

第221号

平成30年8月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kminami@shingu.co.jp
電話07991-755-1212

やればできる

このたびの西日本豪雨災害の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。次々と襲う自然災害に、我が国に与えられた条件の厳しさというものを感じずにはいられません。しかしながら、この厳しいなかを生き抜いてきたからこそ、知恵が生まれ、民衆の支えあう心と実行が「おもてなし」の温かさを育んできたのではないかと思えるのです。

こうして災害の度に感じるのには、対応の早さです。阪神淡路の地震の時にはなかった対応力が教えられずとも働いています。確かに、避難指示のタイミングや老人の一人暮らしへの連絡や避難など多くの課題はまだまだの感もありますが、被災地支援に向けての実行力は目に見えて早くなりました。

それぞれが自分の立場で考えて、判断を下すことができるようになったというあかしでもありません。現場は仕事でも同じですが、答が一つということはありません。現実社会は、動物や植物を殺して私たちが食物として食べるという矛盾した形になっていて、ルール通りに同じ結果が保証されているわけではないのです。特に災害現場では、即判断して実行するという姿勢がないと命に関わることになります。以前は災害復旧も手続き優先でないと前に進まず、被災された方が苦しみを何重にも味わうことにつながっていました。そんな課題が少しずつ改善されてきています。

弊社の近くでも国道が陥没し、通行止めになざるを得ず、狭い田圃道を乗用車だけでなく貨物車が譲り合いながら進まざるを得なくなりました。一週間は無理かなとこれまでの経験から考えておりましたが、なんと三日間で仮復旧して通れるようにしていただきました。大型車通行禁止でしたから、トラックは20km以上の迂回をしなければなりませんでした。周辺の住民も通勤の皆さんもずいぶん喜んでおられました。

やればできる実力はあるのに、これまではなぜできなかったか。責任追及をするよりも、大切なのは実力をこれからも伸ばしていくことであると思います。民間企業であっても、いつの間にか行政のような手続きをしないと前に進まなかったり、対応が遅いとされる行政であってもこのたびのようにそれぞれの責任において必要なことを即実行することで、経験値が上がり、必要なことが必要となることへと繋がっていき、結果は大きく変わってきます。

これは、日頃の仕事の中での成果が、イザというときに問われるのだと学びたいことでもありません。出し惜しみをせずに、自分にまかされた仕事を自分の責任として一回で終わらせるように工夫を重ねてまいりましょう。

そして、できる人は「誰の仕事でもない仕事」を自分の仕事に変えていきましょ。そうすることで実力は上がっていくのです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

NPPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていたただいております。

尋常小學修身書 卷五 兒童用

第十一課 兄弟

伊藤小左衛門は伊勢の室山村の人で、味噌・醤油の製造を業としてゐました。小左衛門に三人の弟があつて、兄弟互に心をあはせて家業に勵んだので、室山味噌の評判が世間にひろまりました。

或年、大地震があつて、その倉はたいていつぶれました。その上、雨が長く降つた爲に、味噌・醤油はおほかた腐つてしまつて、さしも繁昌してゐた伊藤の家もにはかに衰へました。世間の人は誰も、「いくら室山の味噌屋でも、もとの身代になることはむずかしかろう。」と言つてゐました。小左衛門は三人の弟に、「今から兄弟心をあはせて、少しも他人の力にたよらないで、一生けんめいに家業に勵み、三年の後には、きつともとの身代にして見せようではないか。」と相談しますと、弟たちも皆進んで賛成しました。それから兄弟は仕事を手わけして、大ぜいの人をつかひ、一人は味噌醤油の仕込を始め、一人は又遠くへ行つて材木を買集め、小左衛門は全體のさしづをしました。かようにして四人の兄弟は日夜働いて家業に勵んだので、三年た、ないうちに前よりもりつばな倉が出来、身代ももとの通りになりました。

其の後、小左衛門は製茶・製絲等の業を始めましたが、兄弟はいつも力をあはせて助け合ひ、仕事に勵んだので、家は益々繁昌して來ました。